自己評価結果公表シート

２０２２年度

明星小学校

１．学校の教育目標

明星学苑は 2023 年に創立 100 周年を迎える。2022 年は、次の 100 年（Next100 ）に向かっての大切な助走期間となる。明星小学校では、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を受け継ぎながら、新しく設定した教育目標「『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」をもとに、特色ある教育活動を展開し、「質」（教育の質、教師の質、子どもの質、保護者の質）の観点から、「教育の明星」としてのブランド化を図っていきたい。

２．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) 教育力向上

① これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育

② これからの社会に必要なグローバル力を育む「先進的プログラミング教育」

③ 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する探究教育

④ 児童一人ひとりの資質・能力を育てる高い授業力の育成

(2) 一貫教育の推進

① 子どもの力を最大限に伸ばす一貫教育の確立（幼小、小中連携）

② 内部進学者の確保

③ 特色ある「明星ブランド」を創る

(3) 広報活動の強化と入学者確保

① 定員増、支出削減計画作成及び実行

② 「教育の明星」をブランド化する広報戦略、政策を IR センターとの連携

(4) 働き方改革の推進

① 「楽しい」と思える職場の確立

② 仕事内容の効率化を図る

③ 働きやすい環境・制度の確立

３．評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 教育力向上 ○「英語力」と「理数力」を重視した教育 ・卒業時英検 80%以上		・保護者満足度アンケートの結果からみて、「英語力」「理数力」の強化に対して例年通り高い数値を示している。特に、日常に戻しつつ行ってきた宿泊学習、畑体験、低学年理科等で、「体験教育」「くぬぎの時間の体験」の満足度が大きく上

保持 ・公開授業研究会で発信 ・低学年理科 ○「先進的プログラミング教育」 ・ベネッセ、ソニー、明星大学情報学部との連携 ○感動を体験する深い学びと豊かな心を育む教育 ・知的好奇心や自ら考え行動する力を育むカリキュラム ○質の高い教育力 ・校内研究会の充実と公開授業研究会の外部発信 ・IR センターとの連携	A	昇した。 ・CRT の結果は、ほとんどの学年で国語・算数の得点が全国平均を 5～10 ポイント上回った。 ・卒業時英検保有率は、6 年時最終回の結果を待たず、準 2 級 2 名を含め、80%以上保持できた。 ・授業力向上に関しては、算数科に焦点を当て、外部講師を招いて授業研究会を行い、授業づくりの在り方について研究してその成果をあげた。特に、算数プラスとして算数以外の教科（国語、理科、英語、図工）でも外部講師を招聘しての授業研究会を行い、授業力向上を図った。 ・明星算数授業研究会（2 月 5 日開催）は対面で行い、150 名を超える参加者を得て、外部に発信することができた。 ・東京都私学財団の研究助成金を得て、（1）算数科における探究、（2）SDG s 教育、STEAM 教育と結び付けた探究、をテーマに研究助成を受け、その成果をまとめて発信した。 ・外部向け研究会は 2 回（明星算数講座第 23 回、24 回）行い、ともに 150 名を超える参加を得て、本校の特色である「算数の明星」を外部に発信することができた。
（2） 一貫教育の推進 ○連携を深める一貫教育 ・幼小連携カリキュラム ・小中連携カリキュラム ○内部進学の確保 ・幼稚園から38%以上(35 名以上）、 ・中学校へは 70 %以上 (59 名以上) ○特色ある「明星ブランド」を創る ・明星小独自の取り組み	A	・幼小連携では、コロナ禍ではあったが新しく作成した幼小連携カリキュラムの実践を図ることができた。（教師間交流、園児児童間交流、小学校教師の幼稚園への出張授業など） ・小中連携では、中・高教員による英語、理科教員の専科事業、小学校教員の中学校数学の専科授業で、連携を図ることができた。 ・教育支援室と連携を図り、「探究」と「情報」で、大学を巻き込んでのワーキンググループを継続して開催することができた。 ・内部進学では、明星幼稚園から 39 名/93 名の出願、36 名（39 %）の進学で昨年より多く獲得することができた。 ・明星中学校への内部進学は、52 名/85 名（61%）で、７0%に届かなかったものの昨年より増加した。 ・2023 年度より明星特進クラスが新設されたが、25 名の特進進学、総合進学クラスは、27 名の進学となった。 ・特色ある明星ブランドとして、英語の強化、理数の強化、先進的プログラミング、に加えて、「探究」を立ち上げた。「クラス探究」「ｾﾞﾐ探究」とも SDGs 教育や STEAM 教育と関わり合って、今後の「探究」への方向性を明らかにすることができた。 ・明星ブランドの一つとして、「教師力」「チーム明星」を発信し続けたが、幼稚園、保育園、塾などで、強く認識された。

(3) 広報活動の強化と入学者確保 〇入学者の確保 ・志願者 10%～15%増 ・入学者 100 名以上 〇IRセンターとの連携した広報戦略	A	・年度途中より広報強化チームを結成して取り組み、認知度、評判等も向上し、志願者増加プランの実践を図っている。 ・校長わくわくチャンネルとしてユーチューブを５月に開始した。９か月でチャンネル登録数 1350 名、20000 回以上の視聴を得ている。（3 月 31 在） ・昨年以上の志願者（20%増）、入学者 111 名を得ることができ、目標値を大きく超える成果となった。 ・IR センターと連携しながら、保護者アンケートの結果等を機会あるごとに集計、フィードバックし、円滑な学校運営を図ることができた。
(4) 働き方改革の推進 〇変形労働制へ準備	B	・2023 年からの変形労働制本格導入を目指し、プレで実施してきた。毎月の状況を振り返りながら問題点の洗い出しを行い、年間カレンダー作成資料を得ることができたので、2024 年度から本格導入できる状態を作ることができた。

４． 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・新たな教育目標「賢さ」と「豊かさ」をテーマに取り組み、児童の変容、授業中の様子、保護者アンケート、ＣＲＴの結果等から、授業力、チーム学校力に力強さが見られた。 ・広報活動の一層の強化により、志願者、国立附属小との併願数が増加したことからも明星ブランドが広く定着してきたと捉えられる。

◎「３． ４．」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

５． 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
・明星ブランドとしての「理数」の一層の強化	・理科室を改築して未来型教室「理数ワールド」を創る。 ・算数強化の一環として、夏に２泊３日のマス・キャンプ（函館を予定）を希望制で実施する。 ・授業研究発表会（年３回）を通して、外部に発信する。
・明星ブランドとしての「探究」の一層の強化	・「探究」を「くぬぎ探究」「クラス探究」「ゼミ探究」の３本柱で全員で取り組み、「探究」明星カリキュラムを作成する。 ・「探究」の観点から、大学を含めた小中連携（「ｾﾞﾐ探究」の実施）を図る。
・広報活動の強化	・志願者（20%増）、入学者（105 名）の確保

	・内部進学の一層の強化（幼稚園から 40%以上、中学校へ 70%以上）

※記入に際しての留意点

○ 「３． 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。

○ 「４． 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「３． 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。

○ 「５． 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。

○ このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。